

冬の虹

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文



真昼間の空を押し上げ花水木

初夏の生命力と躍動感に満ちたこの句は、東海地区を代表する俳人伊藤敬子さん50歳の時の作品で、私のお気に入りです。(以下全て敬子さんの句)

敬子さんは愛知県立旭丘高校一年生の時、文化祭で募集していた百人一句に応募入選したことがきっかけで俳句を始め、瑞々しい句を発表していきます。

星座多彩わが十代の果てむとす

地元の短大を卒業後26歳で結婚をし、2人の子育てをしながら俳句を続け、40歳で創立されたばかりの愛知淑徳大学に社会人入学します。

勉学を重ね提出された原稿用紙五百枚にも及ぶ卒業論文は新実南吉文学賞となり、中日新聞社より『写生の鬼俳人鈴木花蓑』として出版されました。

本学卒業後の敬子さんは持ち前のパワー溢れる行動力で、毎月俳句研究会を催し、句誌『笹』を発行していきます。

『笹』の創刊を本学初代学長小林素三郎

氏に報告すると「3号誌にならないようにね。」と励まされるほど同人誌は継続していくのが難しいのですが、敬子さんは主筆および編集発行人として、生涯にわたり発行されました。

笹の根のしずかに伸びし緑雨かな

二人のお子様にご家族ができ、お孫さんにも恵まれます。

幼らのこゑを真中にお正月

親の責任を果たされた敬子さんは『笹』の他にも句集や俳句に関する本を数冊刊行されたり、地元の著名人と芭蕉にちなんだ連歌の会を催されたり、テレビやラジオに出演されたりと精力的に活動をし、愛知県芸術文化選奨文化賞、山本健吉文学賞などを受賞されます。

一芸に遊ぶ一生涯の月

まだまだ、活躍が期待されていた敬子さんでしたが、昨年六月惜しまれつつ八十五年の天寿を全うされました。

何もかもはるかとなりて雪無尽

亡くなられて一月後に出版された最後の句集『千艸ちぐさ』から2句。

花はめぐる誌齢450号の笹

40年にわたり、一号の欠号もなく『笹』を発行しえたことへの万感の思いが素直に伝わってきます。

人の世の美しかれと冬の虹

凍て空にかかる淡く儂い虹は神々しい。

*

伊藤敬子さん、初代大学同窓会会長、大学非常勤講師、学園評議員などで愛知淑徳にご尽力賜り誠にありがとうございました。どうぞ心安らかにお休みください。